第○学年　道徳科学習指導案

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和○○年○○月○○日○校時

○　年　○ 組　計　○○　名

　授業者　○○　　○○

【第○学年年間指導計画　P.○○　○○月計画】

１　主題名「　　　　　」　内容項目○［　　　　　　　　］　（例）Ｂ［友情、信頼］

＊原則として、年間指導計画における主題名を記述する。

＊主題名は、教師の思いが込められた授業のテーマ、児童（生徒）にとっては学びの指針となるもの。

　→　指導者がねらいを焦点化できるような簡潔な表現、児童（生徒）には興味深く親しまれるような表現を工夫する。

２　教材名「　　　　　」　出典（　　　　）

＊出版元、書名、学年など・読み物資料以外の資料の場合でも出典が示されているか。

３　指導観

(1) 価値観

**○ねらいとする道徳的価値の捉えや考え方を学習指導要領に基づき記述する。**

＊発達に応じた内容項目のポイントを記述する。

＊ねらいとする道徳的価値に関する授業者の指導のポイントを明記する。

|  |
| --- |
| 内容項目（価値）の捉え方等については、  　小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　Ｐ20～25参照　＊内容項目（価値）については、Ｐ26～Ｐ69参照  　中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　Ｐ19～24参照　＊内容項目（価値）については、Ｐ25～Ｐ68参照 |

(2) 児童観（生徒観）

**○明確な価値観を基に子ども達にどのように指導し、子ども達が考えることを記述する。**

＊ねらいとする道徳的価値に関する児童（生徒）の実態（これまでの学びと現状）、良さや可能性を把握して記述する。

＊ねらいとする道徳的価値をもとに、育てたい子ども像を記述する。

＊道徳の時間以外での児童（生徒）の状況を踏まえ、どの部分からねらいとする道徳的価値に関する指導を行うのか、指導の方向性を明らかに記述する。

＊補充、深化、統合の方向性が明らかになっているか。

(3) 教材観

**○授業者の明確な価値観、育てたい子ども像を基に、資料の活用の仕方を記述する。**

＊教材のあらすじの紹介のみで終わらない。

＊教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法等を記述する。

|  |
| --- |
| 学習指導案作成の主な手順については、小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　Ｐ77～82参照  　　　　　　　　　　　　　　　　　　中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　Ｐ76～83参照 |

４　本時の指導

(1) ねらい

**○「（活動・思考）することを通して判断力を育てる」、「～心情を育てる」、「～実践意欲と態度を育てる」**

＊ねらいとする道徳的価値の諸要素を端的に記述する。

＊内容項目との整合を図る。

（例）互いを認め、助け合おうとする心情を育てる。

(2) 授業の工夫

＊教材提示の工夫、発問の工夫、話合いの工夫、書く活動の工夫、表現活動の工夫、板書を生かす工夫、説話の工夫

|  |
| --- |
| 多様な考え方を生かすための言語活動については、小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　Ｐ89～90参照  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　Ｐ91～92参照 |

(3) 展開

|  |
| --- |
| 道徳科の特質を生かした学習指導、学習指導の多様な展開については、  　小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　Ｐ79～82参照、中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　Ｐ78～83参照 |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | | 学習活動 | 主な発問 | 予想される児童生徒の  発言や心の動き | ◆指導上の留意点　◎評価  ＜生徒指導の４つのポイント＞ |
|  | 導  入  （分） | |  | ＊主題に対する児童（生徒）の興味や関心を高め，学習意欲を喚起して，ねらいの根底にある道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図る学習活動を記述する。 |  | ◆指導上の留意点  　次のような指導等の留意点を必要に応じて記述する。  　□資料提示  　□発問  　□話合い  　□書く活動  　□動作化・役割演技等  　　の表現活動  　□板書の工夫  　□説話  　□ICT機器活用  　□学習形態の工夫  　　 　　　　　　等  ◎評価  　こどもの学習状況や道徳性に係る成長の様子を捉える視点を記述する。  ＜生徒指導の４つのポイント＞  　〇自己存在感の感受  　〇共感的な人間関係の育成  　〇自己決定の場の提供  　〇安全･安心な風土の醸成 |
|  | 展  開 | 前  段 | ＊　中心発問　やその前後の補助発問等，それに対する予想される児童（生徒）の発言や反応や心の動きをできるだけ具体的に記述する。中心発問は で囲む。  ＊発問の工夫については，小学校学習指導要領解説　特別の教科 道徳編 P.81参照  中学校学習指導要領解説　特別の教科 道徳編 P.81参照 | ＊教材を中心とした学習活動  　教材に描かれている道徳的価値に対する児童（生徒）一人一人の感じ方や考え方から問題を追究する学習活動を記述する。 |  |  |
| 後  段 |  | ＊ 道徳的価値の一般化  　ねらいとする道徳的価値を自分のこととしてとらえ，これからの自己の生き方について考えを深めていく学習活動を記述する。 |  |  |
| ＊ 学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり，学んだことを更に深く留めたり，これからの思いや課題について考えたりする学習活動を記述する。 | 終  末  (分) | |  | ＊学習を通して、主題となる道徳的価値について考えたことなどをふり返る学習活動を記述する。  　　学習を通して考えたことや気付いたことなどを確かめる。学んだことを更に深く心にとどめる。  　　これからの思いや課題について考える。… |  |  |
|

(4) 評価の視点

**〇子どもの学習状況を見取る視点を記述する。**

（例）互いを認め、助け合おうとするよさについて、自分自身のことと関係づけて考えているかを振り返りの記述から見取る。

|  |
| --- |
| 道徳科の評価については、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P.105～P.108参照  　　　　　　　　　　　　中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P.107～P.112参照 |

(5) 板書計画

＊ねらいをふまえた上で、指導の意図や教材の内容の整理、児童生徒の多様な考え方を視覚的に整理する。

＊教材のあらすじや登場人物の心情理解のみの板書は避ける。

＊別紙に大きく表示してもよい。

５　他の教育活動等との関連

**○本時で学んだこと道徳科以外の教育活動との関わりを記述する。**

＊他教科や特別活動等との関連を記述する。（別葉）

６　参考資料　　その他、参考にした文献等があれば記述する。

以下の①から④を活用して学習指導案を作成すること　　　　（※確認後、指導案からは削除してください。）

①小学校(中学校)学習指導要領解説 各教科 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文部科学省

②『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校・中学校）』 　　　　　　　　 国立教育政策研究所

③学力向上推進５か年プラン・プロジェクトⅡ　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　沖縄県教育委員会

④「問い」が生まれる授業サポートガイド（令和4年度版） 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　沖縄県教育委員会

⑤生徒指導提要（改訂版）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和４年１２月　文部科学省